

「政治刷新車座対話」開催結果

令和6年8月30日

自由民主党
政治刷新本部

1. 経緯

自民党においては、一部派閥の政治資金をめぐる問題をめぐり、岸田総裁を本部長とする「政治刷新本部」を立ち上げ、1月25日に中間報告をとりまとめたところ。

その後、国会における議論と並行して、全国の党員・党友・国民の声を幅広く聞くため、「第91回自由民主党大会」（令和6年3月17日）において、岸田総裁から「政治刷新車座対話」の開催が表明され、47都道府県において、車座対話を順次実施してきた。

2. 開催実績

3月22日（金）に、石川県で初回の政治刷新車座対話を開催（茂木幹事長出席）して以来、8月24日までに47都道府県で（計63回）開催し、1000人を超える皆様にご参加頂き、政治資金・選挙制度等の政治改革、自民党改革、広報の在り方、子育て支援策をはじめとした各種政策など幅広いご意見をいただいた。

執行部からは各回とも、岸田文雄総裁、茂木敏充幹事長、森山裕総務会長、渡海紀三朗政務調査会長、小渕優子選挙対策委員長、松山政司参院幹事長、福岡資麿参院政審会長、金子恭之組織運動本部長、平井卓也広報本部長の9名の役員のうち1名が参加するとともに、累計57名の議員が同行・参加した。

3. 主な意見

車座対話において参加者の皆様からいただいた貴重なご意見のうち、主なものは以下の通りである。

《政治資金等の政治改革》

- ・今回の問題は法令どおり収支報告書に記載さえしていれば問題なかった。決めたことは守るべき。遵法精神、倫理観の欠如の問題。
- ・政倫審での弁明で政治不信に拍車をかけた。責任も取らず見苦しい。
- ・個人献金では限度がある。企業団体献金は続けてほしい。

- ・過大な業界団体献金は、政策への影響があるとの疑念を惹起し得るものであり、改めるべき。
- ・旧文通費の使途の明確化など旧文通費改革を進めるべき。国民はいい加減にしてほしいと思っている。政策活動費の扱いはまだまだ甘い。身を切る改革をしっかりとやらないといけない。
- ・政治資金パーティーは不正なものではなく、透明性を高め、公明正大オープンな形であれば開催していい、というのが望ましい姿。
- ・政治資金パーティーで資金集めは全面禁止としなければ理解は得られない。お金のかからない選挙システムも検討すべき。
- ・パーティー券公開基準を5万円に引き下げることが庶民には関係なく、国民は、まだパーティーをやるのかとあきれている。理解を得られない。
- ・会計責任者の名前を自分の名前にするというのが責任の所在を明らかにすることではないのか。
- ・税金に対して、民間は脱税など厳しく罰せられる。政治家にも同様に厳罰化を求めたい。
- ・処分が甘すぎる。党支持者の声を聞かず、誰も責任を取っていない。民間なら不祥事への関与問わずトップが責任を取るが、それが無い。総裁を含め執行部総入れ替えくらいの刷新感を出してほしい。
- ・処分を500万円で区切りをしたことは理解に苦しむ。
- ・一連の党の処分について、法令に抵触するものでない以上、党の規約に基づき処分が決まることは妥当。
- ・収支報告書不記載について、1円単位の領収書公開や残額については返金して対応するなど、透明性を確保してほしい。また、不記載金額については、国に返却するもしくは災害時の義援金に使うなどしてほしい。
- ・外国人は、寄付はできないがパーティー券は買える。ルール作りが必要。
- ・政党交付金では足りないから、県連はパーティーを開催する。党として、一元化したきちんとした対応が必要だ。
- ・野党も政治資金パーティーを行っている。労働組合の寄付金や党の機関紙購入を公開対象にするなど、公平性を確保してもらいたい。
- ・地方議員の政務活動費の法整備が全く手つかずの状態。安心して地方議員が活動出来るよう、この法整備も進めてほしい。
- ・新人支部長の立場ではパーティーもできない。必要最低限の活動をしていくにも、党本部から支援をいただくとより活動しやすくなる。

《選挙制度等の政治改革》

- ・選挙制度改革が必要。小選挙区制が党を弱くしている。政治家の質にもかわる。中選挙区制を復活させるべき。
- ・比例復活は国会議員の保険制度であり、並立制はおかしい。廃止すべき。
- ・一票の格差問題に関連し、人口割だけでなく、選挙区の面積や地域的な

- ども加味すべき。このままでは都市部の議員ばかりになってしまう。
- ・合区の解消、憲法改正を含めて進めてほしい
 - ・少数精鋭となるよう、国会議員の数の削減を検討して欲しい。
 - ・公認候補を選ぶ時は、英保守党のように厳格な審査を行うべき。
 - ・現職優先のルールの下、現職支部長に緩みが出ている。
 - ・女性議員を増やすべき。女性が選挙に出やすくなるような仕組みづくりをお願いしたい。
 - ・お金がなくても志があれば国政を目指せるスタイルの提案を。
 - ・SNS等を活用して、若者の政治参加を促すべき。選挙の在り方についても、ネット投票など若者が投票しやすくなる環境作りを進めるべき。
 - ・つばさの党の様な選挙妨害を規制すべき。

《自民党改革全般》

- ・党員を辞めるといふ人が増えており、党員を集める時の風当たりが強く苦慮している。また、党員の高齢化が進んでおり、若い党員を増やす努力をしなければならない。
- ・総裁選の党員投票の比率引き上げなど党費を払うメリットの増加や党費の値下げ、また、党費の活用結果の具体的報告などが必要。
- ・自民党を一括りにして「信頼できない」と思われるのは悔しい。マスコミから自民党全体がここまで言われる筋合いはないはず。本当に正しい政治がしっかり伝わるように改革してほしい。
- ・中央で問題が起きる度に矢面に立つのは地方党員、地元で活動する党員の辛い思いを理解して党改革を進めるべき。
- ・選挙結果に対する精査はどのように受け止めているのか。この後も各市町村の選挙が進んでいくが、候補者選定の段階から地元の声を汲み上げてほしい。また、今まで以上に選挙協力を仰がないと勝てない。保守系の市町村議員へ協力をしっかりお願いしてほしい。
- ・次の国政選挙は大変厳しい、政治に対して不信感しかないと感じる。
- ・これを機に、いつもの重鎮ではなく若い人を登用してほしい。このままでは選挙は戦えない。国会議員にはしっかり判断し、最適な人を選んでいただきたい。
- ・もっと周辺がフル稼働するべきで、総理ばかりが孤軍奮闘しているように見える。岸田総理は、一生懸命やっている。なぜここまで言われるのか。自民党全体の責任。総理を支えるための露払いがないからだ。
- ・パーティーが出来ず、県連の収入が減る。党本部からの交付金・助成金を増額して欲しい。
- ・国と地方、世代間の格差を無くすため、地方議員の関与、若手議員の登用を積極的に行っていくべき。
- ・ガバナンス・コード改訂で、コンプライアンスの部署をつくってほしい。

専門相談早期対応窓口では全然足りない。こちらから各議員に監査を入れて、間違いを早期に見つけるべき。

- ・コンプライアンスの徹底と党本部の危機管理の徹底をお願いしたい。コンプラ研修での SNS 研修を多く行ってほしい。
- ・派閥が無くなると議員の教育機関がなくなる。先輩議員の指導が自民党としてあるべき姿ではないか。
- ・定年制の導入が絶対に必要。20 年先の話をするのであれば、20 年先も当事者である人が、責任を持った発言をすることが必要。
- ・派閥の解散について対応がバラバラ、統一した立場を取ってほしい。

《広報強化等の党改革》

- ・国会、国の情勢、今回の問題の情報が全く入ってこない。現在の状況など地域で説明できるような情報が欲しい。
- ・幹事長会議の開催頻度を上げるなど、もっと地方の声を聞く機会を設けてほしい。
- ・一般有権者にはメディアの情報しか判断材料がない。こうした車座対話のように、政治家から直接話を聞ける機会が増えるといい。
- ・党機関紙「自由民主」のレベルを引き上げてもらいたい。
- ・地方議員への SNS 対策の協力、SNS による情報発信を強化すべき。
- ・国会議員の活躍（政策面）が国民まで伝わってこない、伝わるように PR の工夫をしてほしい。
- ・岸田政権はいい政策を進めているのに、国民に伝わっていない。プラスの部分伝える努力が必要。
- ・岸田政権はいろんなことをやってくれているが、テクニカルすぎる面がある。もっとシンプルなメッセージを。

《個別政策》

- ・憲法改正
- ・能登半島地震復興
- ・東日本大震災復興、福島復興再生支援
- ・整備新幹線の着実な推進
- ・農業の後継者育成、食育推進、飼肥料価格高騰対策、価格転嫁、食料安全保障の確立、林業への支援、都市農業への支援
- ・2024年問題への対応（トラック・農家（物があっても運べない））
- ・建設業従事者の人手不足対応、若年層の育成
- ・中小企業の賃上げ支援
- ・インボイス制度の見直し
- ・103万円の壁、130万円の壁の上限緩和
- ・定年延長による給与減の対応

- ・少子化対策（保育の完全無償化、給食費の無償化、正規雇用の増加、子供の学費の税額免除、保育士の処遇改善）、産後ケア支援の強化（地域間格差の是正）
- ・社会保障制度改革（若年層の負担軽減）
- ・医療従事者、介護福祉職員の処遇改善、看護職の人材不足対応
- ・国民皆歯科検診の早期実現に向けた医療従事者の確保
- ・診療報酬改定のベースアップ（物価高への対応）
- ・普天間基地辺野古移設の着実な推進
- ・北朝鮮による拉致問題の解決
- ・地方創生の推進（大学研究施設の誘致、東京一極集中の改善）
- ・オーバーツーリズム対策
- ・外国人（中国人）土地購入規制の強化
- ・離島振興
- ・国土強靱化（5ヵ年計画の継続）
- ・文化予算の拡充

4. 終わりに

以上のとおり、党员・党友そして国民の皆様から多数の貴重なご意見をいただきました。あらためて、こうした車座対話の重要性を認識したところであり、ご協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

今後は、いただいた貴重なご意見を政治改革、党改革、政策立案に適切に反映すべく、党としての議論を継続、深めていく。

(以 上)